

平成 23 年度 魚沼市小教研 「総合的な学習の時間」部会の取組報告

魚沼市小学校教育研究会 総合学習部会
広神西小学校 校長 須田 文彦

1 魚沼市における活動について

魚沼市の小教研では、総合学習と生活科は合同で部会を構成して活動している。平成 23 年度の活動計画としては、新学習指導要領全面実施にあたり、教育課程の伝達講習会を実施した。

教育課程の伝達講習会では、中越教育事務所の大津指導主事から指導いただいた内容に関して、伊米ヶ崎小学校の大平教諭から詳細に説明を受けた後、質疑応答を行った。その後、学校間での情報交換を行うなどの研修を深めた。また、年度当初には魚沼市内の学校の公開授業、参観等も計画したが、日程等の都合で実施できなかった。

2 教育課程伝達講習会及び情報交換会について

(1) 日 時 平成 23 年 8 月 23 日 (火)

(2) 会 場 小出郷福祉センター

(3) 内 容

① 教育課程伝達講習会 (伊米ヶ崎小学校 大平教諭より)

ア 全体指導

新学習指導要領の全面実施につき、着実な実施と適切な学習評価が求められている。全校体制での取組とチェック体制を整える必要がある。

イ 評価について

新指導要領に示された 3 つの視点を踏まえて設定した資質や能力、態度に基づいた観点を明確にすることや各教科の評価の視点との関連を明確にした観点設定が大切である。

ウ 多様な評価の方法について

いろいろな評価方法を組み合わせとともに、学習活動の終末だけではなく、事前や途中で位置付けて実施する。学習過程全般を通じて、児童の学習状況を把握し、指導に役立てることが大切である。

エ 言語活動について

言語活動の充実度合いによって活動の質が高まる。つまり、言語活動の充実はあくまでも手段であって目標ではない。

② 実践報告

小千谷小学校の平澤林太郎教諭による「調べた情報を整理・分析し、生き物の変化を見つめ直す実践 第 3 学年 『自然がいっぱい！船岡山』」の実践紹介

3 成果と今後の課題

活動や体験を中心とした総合学習の授業は、学習の場が教室から学校全体さらに地域へ広がる。その結果、学校や地域の実情によって一律な取組とはならない。それぞれの教師の生活科の趣旨を生かしたカリキュラムをデザインする力と、授業の中で具体的な子どもの気づきを見取り、その質を高めていく力が求められている。

また、小中連携の観点から情報交換を今以上に密に行う事も考えられるし、必要に応じて全体計画の一部を共通化することも出来るのではないか。